

週報

今月のテーマ 米山月間 経済と地域社会の発展月間

第1592回例会 2019年10月31日 Vol.34/No.17

■本日の例会 / 第1593回 令和元年11月7日(木)

- 会長・幹事報告 ●各委員会報告
- 米山奨学生奨学金授与式 ●前年度出席 100%表彰
- ロータリー財団プログラム・ロータリー財団委員会 三輪修珍 委員長
- 会員卓話・生駒俊明 会員

【出席率状況報告】

- ・会 員 数 …………… 55 名
- ・出 席 者 …………… 30 名
- ・欠 席 者 …………… 25 名
- ・出 席 率 …………… 54.55%
- ・10/17の修正出席率・65.45%

■会長挨拶

篠原英介 会長



今年度も3分の1を終えました

本日は宮日美展にて中央ロータリークラブ会長賞を受賞された高橋邦雄さまをお招きしました。受賞作名は「真夏の夜の夢」です。

この高橋さまは26年ぶり二度目の受賞という事で、例会参加も26年ぶり、ご健在ぶりを披露されました。今、スマホのデジカメ機能の普及から、1億総カメラマン時代ともいわれ身近になった反面、マナー違反となるケースも目立ってきています。そのような中、正統派の写真家の皆様にはますます頑張ってくださいと考えています。高橋さまの今後ますますのご活躍を祈念いたします。さて、10月も今日で終わり、今年度も4か月が過ぎました。残り8か月となりますが引き続きよろしくお願ひいたします。11月は第2週にガバナーの公式訪問を控えております。みなさん揃っての例会参加で盛り上げていきましょう。

■幹事報告

江口健一 幹事



第7期 RLI-2730 地区パートⅢが11月17日9時20分～15時30分宮崎日本大学高等学校にて開催されます。是非皆さまの出席をお願ひ致します。

■宮日美展表彰・卓話

高橋邦雄 様



高橋邦雄 (83歳)

1936 (昭和11年)

福岡県に生まれる

1955 (昭和30年) 宮崎県立

大淀高等学校機械科卒業

1957 (昭和32年)

気象庁採用、油津測候所に配置 以後、宮崎地方気象台、延岡測候所、熊本地方気象台、宮崎地方気

象台 福岡航空測候所、油津測候所を経て

1997 (平成9年)

宮崎地方気象台で定年退職

主に気象観測 (潮汐観測を含む)、防災業務に従事した。

写真経歴

1957 (昭和32年) 初めて写真を撮る

1963 (昭和38年) 初めて自分のカメラを持つ

1965 (昭和40年) 公募展に応募を始める

1967 (昭和42年) 県展 (現在の宮日美展) に初入選

以後、宮日展：奨励賞4回。県美展：特選1回、準特選6回。宮崎市美展：大賞2回、特選1回。

福岡市美展：市長賞・特別 (ボルドー市姉妹都市) 賞

福岡市の文化交流使節としてボルドー市に派遣される。

アマテラスの会展：グランプリと入賞2回で招待写真作家に推挙される

九州の達人、フジフィルムフォトコンテストその他に入賞

誌上作品発表

とっておき撮影地ガイド (九州・沖縄編、宮崎県沿岸)、花風景、桜風景 (以上グラフィック社)

アマテラス年鑑No4-20まで連続掲載 (日本芸術出版社)

作品展

個展3回：宮日会館 (パピルスギャラリー。)、福岡市立美術館、UMK ギャラリー。

三人展 (渡邊・清・高橋)：日南市

三人展 (住田・坂元・高橋)：宮崎県立美術館県民ギャラリー。

アマテラスの会展 (東京)：第4回～13回まで連続出展

主な撮影対象

風景：特に海岸の景観、中でも日南海岸に魅了され撮り続ける。日本の海岸風景：三陸海岸、伊豆半島、紀伊半島、四国瀬戸内海、能登半島、越前海岸、山陰の海岸と九州の海岸を撮り歩く。近年は、動物、祭り、植物など撮影対象を広げて楽しんでいきます。

座右の銘：「人間万事塞翁が馬」、「継続は力なり」

写真信条：「光景・感撮・謝心」

光景：風景は光の振る舞い、影を活かす

感撮：感動した光景を撮る 謝心：大自然の恵みに感謝する心

写真と私

「継続は力なり」と申しますが、それを私も経験することができました。私は乳児期に大病を患い、九死に一生を得ましたが、身体的ハンディを背負って社会に放り出されました。私は、昭和32(1957)年、気象庁に採用され油津測候所に配置となりました。以後、宮崎地方气象台、延岡測候所、熊本地方气象台、宮崎地方气象台、福岡航空測候所、油津観測所を経て平成9年に宮崎地方气象台で定年退職となり、気象人生を終えました。この40年間の前半くらは、体調が悪く仕事を休みがちでした。転勤することも出来ず、春の移動時期は悔しい思いを噛みしめていました。そこで、辞職するか、体調の維持に努め仕事を続けるか悩みました。その頃、家族もいたので、ここは何としても頑張って仕事を続けようと思いを決めました。

それならば、少なくとも体調を人並みに維持する努力をしなければなりません。職場で写真に縁があったことで、これを趣味にしようと思いを立ちました。野外での撮影は健康的で、マイペースで行えることが魅力的でした。勿論、写真が大好きだ、ということも大きな要因です。

その後、効果が表れたのか徐々に体調を回復し、転勤も出来るようになり、前記のように7回転勤して定年を迎えました。職場では「あなたは定年まで持たないと思っていた」と言う声もありましたが、一方で「あなたは写真で命を拾いましたね」と思いやりの言葉をかけてくれた人もいました。何事もこつこつと続けることの大切さを痛感し、胸を熱くしました。

「継続は力なり」それは私の大きな宝です。

エピソード 今回の受賞作品「真夏の夜の夢」のうら話

熱帯夜ではないかと思われる寝苦しい夢うつつの床で、雷鳴をききました。その時脳裏をかすめる光がありました。「花火かな…。微睡の中でぼんやりとし

た感覚がありました。

「あ、花火だ」と写真を撮るイメージが湧きました。それまで、私は風景写真、主に日南海岸を撮影してききましたが、近年足元がおぼつかなく、出来るだけリスクを負わないような被写体を求めるようになりました。

そんな中で思い浮かんだ被写体の一つが花火でした。意識して撮るようになって3年になります。

初めはストレートに、普通の撮り方でしたが、これにテクニックを加えてイメージ作品創りを目指しました。長時間露光、多重露光などを試みましたが、フレーム内に花火を収めることやタイミングの難しさを痛感しました。今回の作品は夢うつつの中のイメージを表現したものです。写真は私の生涯の友です。

■米山奨学委員会

黒木雄一 委員長



10月は米山月間です。米山記念奨学会では、事業をロータリアンの皆様にご理解いただくために、毎年、月間の資料として「ロータリー米山記念奨学事業・豆辞典」を発行、配布しています。ここに事業についての基本情報はすべて網羅されておりますので、皆様には今一度目を通していただきたいと思っております。本日は米山月間に当たってDVDを用意してもらいましたので、この機会に事業への理解を深めていただくようお願いいたします。

なお2019年度の奨学会の事業予算は、収入が14億9千800万円、支出が16億300万円、1億円強の赤字予算ですが、積立金を取り崩して運営されます。一方、当クラブの年度当初からの寄付の状況は、本日で約13万円となっており、昨年度の9万円の実績と比較しますと、皆様のご協力で大きく伸びて年度計画のペースで推移しております。ただ2730地区の要請金額、一人当たり1万5千円の年度計画からすると、さらなるお力添えが必要となります。会長、幹事さんには、なにとぞ特別功労者になっていただいでご援助いただきますよう、宜しくお願いいたします。

■■出席委員会報告

外山政典 委員

◆10/17メイクアップ者名(敬称略)

江島 寛、高野広美、高橋誠司、鳥山 浩
西橋龍博、三輪修珍、井上真由美、久保山洋一
秦 喜八郎

発行/ 宮崎中央ロータリークラブ

●事務局 〒880-0806 広島1丁目3番地3 秀豊ビル4階 TEL.0985-22-6767 FAX.0985-22-9170
●例会場 〒880-8545 宮崎市山崎町浜山 シーガイアコンベンションセンター TEL.0985-21-1155(毎週木曜 12:30~13:30)
会長/篠原英介 副会長/小村賢一郎 幹事/江口健一